

実践例「学校経営・学級経営の充実・深化」

「課題2 ふるさとで学び、新しい時代を拓く、開かれた学校・学級経営の創造と推進」

I 学校名 別海町立上春別小学校【根室管内】

II 研究の概要

今年度3年次計画の1年目として校内研修を進めている。また、「別海型CS」の推進として、町が主体となって行っているコミュニティ・スクール、各学年の各教科では、カリキュラムに組み込まれた、地域学習に取り組んでいる。

1 本校の研究

◎学校教育目標 「郷土を愛し、共に学び合い、心豊かに未来を拓く子を育てる」

◎身に付けさせる4つの力

・人を大切にする力 ・自分の考えを持つ力 ・自分を表現する力 ・チャレンジする力
《強く、しなやかに生きる力》

◎研究主題 「共に学び、自ら学びを創る子の育成」

【めざす子ども像】

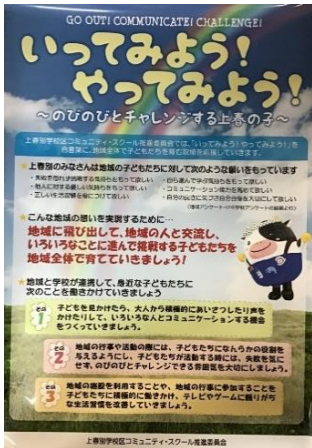
- 課題の解決策を構想し、見通しをもって取り組むことができる子ども
- 互いのよさを認め合い、共に高め合える子ども
- 学んだこと、考えたことを自分の言葉で説明できる子ども

【研究仮説】

- 学ぶ意欲を高める課題を提示し、ねらいと整合性のあるゴールを設定することで、主体的に課題を解決する力を高めることができるのではないか。
- 互いに学び合う場を効果的に取り入れることで、互いのよさを認め合い、より考えを深めることができるのではないか。
- 振り返りで個による学びを実感でき、互いの学びのよさを交流できることで次への学びへつなげられるのではないか。

【手立て1】 主体的な学びを支える課題設定	【手立て2】 共に学び合う場の工夫	【手立て3】 学びの実感がもてる振り返り
<ul style="list-style-type: none">・子どもの問いを引き出す問題や課題の設定。・「ねらい」と整合性のある課題・ゴールの設定。	<ul style="list-style-type: none">・自ら学ぶ場面や共に学び合う場を効果的に取り入れる工夫。・話し合いの目的意識、ゴールが明確となった適切な手段となる工夫。	<ul style="list-style-type: none">・身に付けさせたい力の設定と明確化。・互いに認め合い、自分の考えの変容を自覚するなど、学びを実感できる振り返り場面の設定と活用。

2 上春別学区コミュニティ・スクール



上春別とは、道東・根室管内の別海町の中の牧草地帯に位置する町である。全校児童42名で低学年が単式、3・4年複式、5・6年複式学級の小学校である。

「コミュニティ・スクール」とは、地域の方々が学校運営に参画することで、多くの地域住民が学校教育の当事者となり、学校を応援するとともに、地域の活性化を目指す学校づくりを進める仕組みである。各地区で、地域の願いをもとにCS推進の土台となる、地域で目指す「子ども像」を設定し、取り組んでいる。

地域の人材以外にも、地域の自然や、小規模ならではの地域とのつながりを大切にした施設の見学を行い、学習を深めている。

3 地域学習

①低学年生活科

ア 生きもの名人

学校の近くの川に行き、おたまじゃくしや、かえるのたまごを探りに行った。季節とともに成長していく様子を学習したり、生きもののほかにもその季節の山菜(行者ニンニク、クレソン、わらび等)を採取したりした。生きものや植物に触れ合い、生きものの生態を知る学習となっている。



イ 町たんけん

2年生の「町たんけん」の学習で、地域の商店、郵便局、駐在所に見学に行き、仕事を通して感じる苦労や喜び、どんな仕事をしているのか質問した。他にも実際に行う仕事を児童たちに体験させていただき、学習を深めることができた。



②あさりほり遠足

全校遠足で町内の「尾岱沼キャンプ場」の海岸で、あさり掘りを行った。牧草地帯に住んでいる子がほとんどのため、海と触れ合う体験が少なく、子どもたちの大きな経験となった。潮のにおい、海辺の生きものに触れ合うことや、全校で遊ぶ活動を通して、子どもたちの経験が有意義なものとなった。



③ 3年生「森永工場」見学

社会科「はたらく人とわたしたちの暮らし」の学習で、町内の「森永乳業」に見学に行った。酪農経営している家庭も多く、上春地区の牛乳がほとんどその工場に出荷されていることも知ることができ、自分のうちの仕事が、工場とつながっていることを学習することができた。



④ 高学年勾玉作り

6学年の社会科の歴史の学習から発展し、別海町の歴史や、遺跡について、町の学芸員さんをお招きし、学習した。その後、勾玉を実際に作成し、勾玉の意味や、歴史などを学び、体験をもとに学習することができた。



4 異校種・異学年交流

① 中学校出前講座

6年生の外国語の学習で、中学校の英語の先生も一緒に学習に入ってください、「出前授業」を行っている。専門的な指導はもちろんのこと、「中1ギャップ」をなくす一つの方法ともなっている。



② 保育園児との交流

1年生生活科「秋のたからものランド」では、保育園の年長児を招待し、1年生がお店屋さんを開いている。秋の木の实や葉っぱ



を拾って、おもちゃを作りや服屋さん、魚釣りゲームなど、年長児が楽しめそうなものを考え、準備をしている。1年生も先輩として活躍できる場面であったり、年長児も入学に向けて楽しみになっていたりする活動として、毎年行われている。